

きどころイントラの 教本に載ってないワンポイント座学

2024 年 10 月 6 日

第5回 安全なテイクオフとは(①ライズアップ編 前半)

《事故で最多の状況はテイクオフとランディング》

毎年数件～十数件年起きているパラグライダーの事故ですが、統計的な最多のシチュエーションはテイクオフとランディングになります。その次に空中の事故です。今回はテイクオフに絞って考えていきます。

まず肝心なのは**プレフライトチェック**と**セットアップ**と**クロスチェック**になりますが、これはとりあえず置いておいて、このシリーズでは**テイクオフ自体の動作**について深掘りします。

《理想は講習場で一番遠くまで飛ぶテイクオフ》

先に結論から述べてしまうと、テイクオフの理想形は『講習場で一番遠くまで飛ぶテイクオフ』になります。

つまり多少の風の良し悪しに関わらず、その状況で一番遠くまで飛ぶテイクオフ。

ではそれは一体どんなテイクオフなのか、段階に分けて細かく説明していきます。

- ① なるべく短い助走距離で上手に**ライズアップ**
- ② スムーズにトップスピードまで**加速**
- ③ テイクオフの中心線を**滑空**してスムーズに本流の風向きと強さに合わせて偏流

① なるべく短い助走距離で上手にライズアップ

風の強弱に関わらず、ライズアップ(機体を頭上まで起こす)に必要な助走距離はなるべく短い方が良いです。しかしライズアップは風の強弱に大きく左右される動作です。

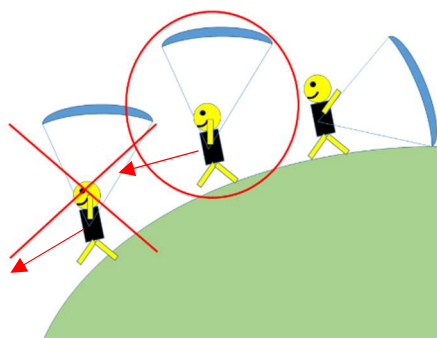
つまり上手にライズアップするためには風に合わせて動作を変化させる事が非常に重要です。

あまり深く考えずに、弱風も強風も同じような感覚でライズアップしている方はいませんか？

上手に立ち上げる事ができればテイクオフは7割方成功します。

逆に言えば上手に立ち上げられなければ7割方失敗につながります。(((;°Д°))コワッ

まずは一番重要なコツから始めましょう！



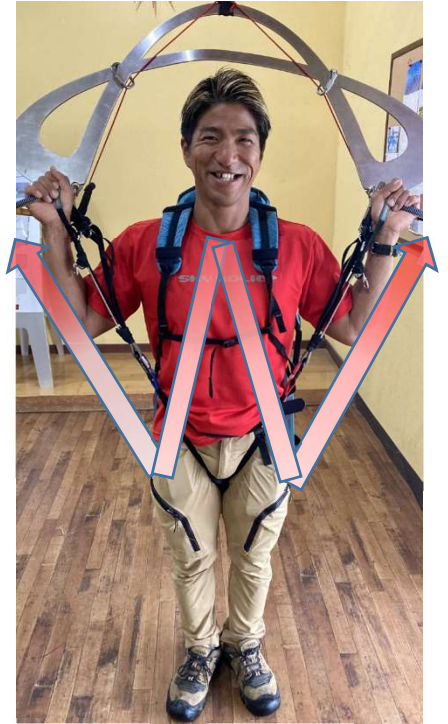
●一番重要なコツ

フロントの場合は動き出す前に **W(ダブルユー)**の構え等と言われる腕のポーズをしましょう。手は体の側面～斜め後ろ(機体側)に伸ばします。スクール生はなるべく腕の力で**ライザー**をピンと張って**カラビナ**から**ハーネス**を引っ張り上げて、**レッグベルト**等を通して体が持ち上がる力を感じてください。

ライザーを伸ばしながらライズアップする事は前縁潰れを防ぐ効果が非常に大きいです。

更には早いタイミングでグライダーの揚力を感じる利点が生れます。揚力を感じるという事はテンションもかかるという事です。早めに良い滑空に繋がります。

もし真上ではなく少し横方向に揚力を感じたら、機体が取られているという事です。いち早く察知できれば素早い修正や取りやめにも繋がります。



P 証に近くなってくるとライザーを意識して伸ばさなくても腕の力が抜けていれば、グライダーをライズアップするに従って自然にテンションがかかります。しかし力が入りやすい人ほどライズアップ時にライザーを前や下に引っ張ってしまいます。

するとグライダーの A ライン付近(前縁)が下に変形して(潰れて)しまう事によって、立ち上がりが遅くなり、更には揚力の発生も遅くなって助走距離が長くなり悪い滑空になります。

左右非対称に変形していたり、横風成分があったりすると“取られ”の原因になり、更に助走が長くなり、滑空が遅れることによってスタチンのリスクが一気に高まります。



繰り返しになりますが、パラグライダーは手の力で立ち上げたり、手の力でしがみついて飛ぶ乗り物ではありません。**腰(カラビナ)でぶら下がる乗り物**なのです。手はブレイクコードを通じてそのバランスをコントロールするだけで、ライズアップの時も腰でライザーを張って手は邪魔をしないように軽く導くだけ。ライザーが伸びていればライザーを通してグライダーの起き上がる角度や速さや傾き等を感じる事が出来ます。

ライザーを伸ばしながらライズアップするだけでリスクを回避するだけでなく、多くの利点も生まれます。手の位置が 5～10cm 違うだけで大きく変わります。もしまだ意識していない方がいたら是非とも試してください。驚くほどライズアップが簡単になります。

長くパラグライダーをしている方の中にはライザーを引っ張りながらライズアップする方がいます。昔の機体は揚力の発生が弱く、少しでも早く空気を入れるためにその様なスタイルもありましたが、最近の機体はその必要性は殆どなく、むしろ悪影響が多いです。

今でも立ち上げ開始の時に一瞬(0.5 秒程)引っ張る事もありますが、その後は直ぐにライザーを伸ばす事が大前提です。

リバースの場合も基本は同じく、ライザーを伸ばしながら立ち上げましょう。

尚リバースライズアップについては動きが大きく変わるので、別の機会にします。